

策定の背景・趣旨

- ✓平成30年度に策定した第6次総合計画における将来都市像「やさしさ 愛しさ いいもの いっぱい 世界へ拡げる 水産文化都市 YAIZU」の実現に向け、市民や事業者と共にまちづくりを進めている。
- ✓併せてデジタル技術や働き方改革、SDGs等新たな視点を取り入れた「第2期焼津未来創生総合戦略」を今年度策定し地方創生に取り組んでいる。
- ✓新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社会の価値観やあるべき姿が大きく変化するいわゆる「パラダイムシフト」の時代の中、感染拡大防止対策の実施を前提とした社会経済活動の継続が求められ「新たな日常」の実現に向け変革の必要性が生じている。
- ✓このような状況の中、将来にわたって持続可能なまちづくりを行い将来都市像を実現するためには、時代の潮流を的確に捉え、重点的・効率的な行政運営が求められる。
- ✓これらを踏まえ、令和3年度で終了する第1期基本計画「焼津未来共創プラン2018」を見直し、令和4年度から令和7年度までの4年間を展望した新たな「第2期基本計画」の策定を令和2年度から進める。

策定にあたっての基本的な考え方

- (1) 社会経済情勢に即した計画
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底を図ることによる日常生活・経済構造の変化や自然災害・猛暑への対応、「Society5.0」社会に適応したデジタル化への推進を踏まえ、政策の柱や施策の見直しを行った上で各施策の構成設定を行う。
- (2) 現基本計画の評価・総括を踏まえた計画
これまで取り組んでいる行政評価の手法を活用し、評価と予算が運用上有効に連動しているかどうかを十分に検証し、より実効性のある計画とする。
- (3) 市民等の声を反映させた計画
市民等と市が課題を共有するため、市民の意見、意向を把握するとともに、より魅力あるまちづくりを進めるため、市民等と市が共創(共に創る)できるよう、それぞれの役割を明確化した計画とする。
- (4) 総合戦略と連動した計画
「第2期焼津未来創生総合戦略」における基本目標等と連動した計画とする。

全体構成と計画期間

- 第2期基本計画の構成は、現総合計画を継承し、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層構成とする。
- (1) 基本構想【改定なし】
基本構想は、焼津市が将来目指そうとする理想の姿(ビジョン)として、「将来都市像」と「まちづくりの基本理念」を設定しており、改定はしません。
 - (2) 基本計画【第2期基本計画策定】
基本計画は、基本構想の実現に向けた行政活動の基本となる政策・施策と、市長の市政運営の方針を反映した政策・施策及び戦略プロジェクト等で構成するものであり、時代に即したものに改定します。計画期間は、市長の任期と連動するため、令和4年度から令和7年度の4年間とします。
 - (3) 実施計画【毎年度見直し】
実施計画は、基本計画で定めた施策を実現するための具体的な手段として策定するものであり、財政事情を考慮して事務事業を毎年度見直します。

計画期間

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
基本構想	----->							
基本計画	基本計画 (目標期間 8年間)							
	← 第1期 (4年間) →				← 第2期 (4年間) →			
実施計画	← 毎年度見直し →				← 毎年度見直し →			

第6次焼津市総合計画の体系図



推進体制

